作文部門

大阪市立南田辺小学校
渡邉 実和
4年
10才

弟のおかげ

渡邉 実和

私は虫がきらいで全くさわれませんでした。ダンゴムシやバッタもさわれませんでした。セミの抜けがらすらさわれませんでした。

私が4才のときに弟が生まれました。とてもうれしかったです。ただ、困ったことに弟は虫が大好きでした。

弟は2才くらいからダンゴムシをつかまえて私に見せてきました。私はそのたびに「きゃー！」とさけんで、もうダッシュで逃げました。公園で遊ぶたびに弟がダンゴムシをつかまえて見せてくるので、見ることにはなれてきました。ある時、少し大きくなって話もできるようになった弟がダンゴムシをもってきて「さわってみない？」と私に言いました。私はびっくりしました。絶対にさわりたくないので「絶対に無理！」と答えました。それからもダンゴムシをつかまえるたびに何度も何度も「さわってみない？」「さわってみた

20×20

ルンルンチャ。ルンルンルン

ョウもつかまえられるようになりました。ダンゴムシもさわれるようにな。たしバッタやシジミチョウもさわれるかもと思い弟がつかまえたのをさわ。てみました。バッタは胸の横をもつと少しかたが。たです。シジミチョウは羽をも。てにがすと指にりん粉がついてきらきらしてきれいでした。

弟は5才のころには虫取り名人で、アゲハチョウやトンボやセミもつかまえられるようになりました。私はアゲハチョウはさわれるけれど、トンボやセミはまだこわくてさわれません。

私はまだこわくてさわれない虫がたくさんだけど、虫が大好きな弟のおかげでこれからさわれるようになるかもしれません。虫好きの弟がいてよか。たです。

20×20